



二人三脚で歩む縄文文化の案内人

守り、伝える世界の宝

profile

神馬久夫 昭和23年11月12日生まれ。青森県出身。
神馬廣子 昭和27年7月7日生まれ。洞爺湖温泉出身。

Spotlight

スポットライト



アプタ・フレナイの会

神馬 久夫 廣子 さん

縄

文時代の人々の貴重な遺産として、世界文化遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群。計17遺跡の一つが、入江・高砂地区に広がる入江・高砂貝塚です。

2つの貝塚が「世界の宝」に数えられるようになった裏には、その魅力を伝え続けている町民の情熱がありました。北陸最大級の縄文時代の集落跡といわれる長者ヶ原遺跡を抱える新潟県糸魚川市。ここで2002年に開かれた第

5回縄文シティサミットの参加者の中に廣子さんがいました。知人の誘いをきっかけに遺跡の発掘作業に関わっていた廣子さんは、地元の縄文遺跡の魅力を語る参加者に刺激を受け、翌03年にアプタ・フレナイの会を発足。講演会や見学会を主催し、入江・高砂貝塚の成り立ちや歴史的価値を伝え始めました。

発足当初は4人しかいなかった会も年々会員が増え、09年には、とうや湖縄文まつ

りを初開催。廣子さんは「地域と一緒にできるイベントを考えて開催しました。勾玉作りや土偶作りには子どもたちがたくさん来てくれました」と振り返ります。

一方で、北海道・北東北の4道県による世界文化遺産候補への共同提案が決定してからは、官民一体となった活動が活発に。会長を受け継いだ久夫さんは、行政や他の縄文サークルとの連携に尽力し、21年7月には悲願だったユネスコ世界文化遺産の登録が実現しました。

今年4月、アプタ・フレナイの会は発足20周年を迎えました。久夫さんは「地域住民が貝塚を守るという意識を持たないと本当の世界遺産にはなりません」と力を込めます。

10月には、町では15年ぶりとなる縄文シティサミットが開催予定。神馬夫妻は「世界遺産がある場で活動できることは私たちの誇りです。仲間を増やして縄文の魅力を伝えたいです」と、サミットの成功に向けて意気込んでいます。

東奔西走



洞爺湖町史の編さんのため、最近では昔の町の写真をよく見るのですが、全く知らなかった電鉄や、護岸前の洞爺湖を知ることができたり、非常に勉強になっています。資料を提供していただける方はぜひ一報ください。(D.Y) 先日、虻田小学校の入学式に取材に伺いました。新1年生が背負っていたランドセルは、おしゃれなものや可愛いものばかりで「私が小学生だった頃にもこんなの欲しかったな～」としみじみ思っていました。(Y.A)

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

